

JICA 青年海外協力隊(JOCV)における国際教育協力 (JOCV: Japan Overseas Cooperation Volunteers)

講師 前田美知子氏 (元 JICA 技術専門員)
坪川紅美氏 (元 JICA 青年海外協力隊員)

日時：2003年7月19日(土) 10:30～15:30

場所：子ども発達教育研究センター室

主催：お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター

1. JICA の概要

組織

外務省 国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊 (JOCV)

連絡先

- ・所在地：〒151-8558 東京都渋谷区代々木 2-1-1 新宿マインズタワー 6～13階
- ・TEL：03 (5352) 5311～5314 ホームページ：<http://www.jica.go.jp/activities/jocv/>

目的と事業

- ・ JICA は、日本の ODA(政府開発援助)のうち、技術協力を担当する機関。
- ・ 開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的とする。
- ・ 主な業務内容は開発途上国への技術協力。青年海外協力隊は、この一環である。研修員受入，専門家派遣，機材供与，技術協力センター協力，開発調査。

坪川紅美：元青年海外協力隊員

前田美知子：元青年協力隊技術専門員 (25年間)

両者とも、今回 JICA サイドより、拠点システム事業に協力

2. 青年海外協力隊の幼児教育派遣(前田美知子)

派遣国

- ・ 累計 38 カ国。アジアと中南米が多い。中近東やアフリカからも要請が増えてきた。

派遣隊員

- ・ 保育士 106 名、幼稚園教諭 235 名、計 341 名。
- ・ 幼児教育の実践経験のある人，現場経験の豊かな人ほどよい。
- ・ 協力隊は、20～39 歳。
- ・ シニア海外ボランティアは、40～69 歳。派遣先はモンゴル、マレーシア等。協力隊員が草の根で 3～4 年活動した後に行く。

支援の形態

- ・ 要請主義。JICA は技術支援。
- ・ JICA の事務局が各国にある。ニーズが出たときに、専門技術者として派遣する。
- ・ 最近幼児教育への要請が増えている。幼児教育のネットワークができた。
- ・ 今回は、世界的な援助傾向と要請との兼ね合いで支援の拠点事業が考えられたのであろう。
 予算(隊員派遣費)
- ・ 技術協力として、ODA 支出

3.JICA の支援の実際(前田美知子)

協力隊員の現地活動

- ・ 現地の幼稚園・保育所・孤児院などに所属し、保育活動を行う。
- ・ 現地の保育者と協力したり、保育の実践指導をしたりする。
- ・ 保育の内容・方法・指導案作成について指導する。
- ・ 保健・衛生・生活習慣について指導する。
- ・ 教材紹介、施設設備の改善・作成において指導する。
- ・ 巡回指導、講習会、母親指導などを行う。 他
 カウンターパート研修(例)
- ・ スリランカの指導者が、郡山女子大にて 11 ヶ月の研修を受ける。支援の成功例。
- ・ 影響力が残るためには、指導者クラスが派遣されることが大切。指導者を呼んで研修し、現地で次を育ててもらう。
- ・ また、途上国にこちらから指導者が入ることが大事。しかし、中々講義をするというところまではいかない。

4.隊員の選抜と訓練(前田美知子)

- ・ 一次が筆記で英語の力を見る(中3レベル)。二次面接で、新しい言語を習得する力があるかどうかを見るテストを行う。
- ・ 合格後、一日 5 時間の語学訓練を受ける。完全に話すようになることは無理であり、旅行会話ができるあたりで現地へ行く。
- ・ 半年は何を言われているのかもわからない。1 年して文化もわかってくると本格的に活動できるようになる。
- ・ 原則 2 年。延長も可能で 3 年もある。

4.マレーシアでの活動(の派遣当時)の例(坪川紅美)

派遣された 1988 ~ 1991 当事の幼稚園の実状

- ・ 単に文字や数字をただ復唱するだけ。子どもは退屈して生気がない。
- ・ 教師が黒板に AAAAAaaaa と書き、復唱させて、その後「書きましょう」と言うだけ。
- ・ 算数も同じで、教師は文字を教えているだけ。5 という文字を教えれば 5 という数がわかると思っている。
- ・ なぜ子どもは退屈しているのだろうと教師に聞いたら、「だってこの子たちは怠け者だから」という答えが返ってきた。
- ・ 子どもは教えなければならないという考え方がある。軍隊方式といえるほど一方的。指導者層の研修がないとそこは変わらないだろう。

- ・ 言語の学習に重点を置いている。文字が書けることが大切という認識。名前は書けるし文字も一通り知っているが、本は読めない。
- ・ 教員の給与は低いので、志気が高まらない。ボランティアではどうしようもない部分。教師の考え方を考えるための活動
- ・ 自分が実際に現場に入って自分の姿を見てもらった。子どもの顔が変わり、集中する姿を見せると、どうしてだろう、ということになり、そこから考え方の転換につながる。マレーシア政府の体制
- ・ 派遣されていた約 10 年前は、幼児教育はまだノンフォーマル・エデュケーションであった。
- ・ その後 1996 年の教育要領では、フォーマル教育として発展。ユニセフとオランダの NGO が関わって、子ども中心の考えが入っている。しかしどこまで整っているのかは疑問。
- ・ 1996 年の教育要領における「遊びを通して学ぶ」という文が、2003 年の教育要領では「勉強を通して遊ぶ」に変わっていた。
- ・ 親がお金を払う。きわめて貧しいところだけ無償で給食運動。

5.日本ができる援助とは(坪川紅美)

日本型の援助とは

- ・ 相手の心に沿う。一緒に考えていく。
- ・ 日本型の援助のほうが成功率は高い。「顔の見える援助、心の見える援助」がキーワード。コツコツやりながら、やっていることが見える。世銀は「顔の见えない援助」
- ・ お金のばらまきでは ODA は成り立たない。アフリカで失敗を重ねている。自助努力が足りない。
- ・ ドナーとしては「お金を出して彼らのやりたいことをやるのがよい」という「コモン・バスケット方式」。これは日本のやり方とは相容れない。日本型の援助がどう生き延びるのか 拠点システムへの期待。
- ・ 世銀でお金を出してもらって、日本に蓄積された知を活かす。
- ・ 昔は中等教育（主に職業教育等）にお金をかけたが貧富差は解決しない。
- ・ 初等教育にお金をかけるとリターンがいちばん良い。教育学の立場からどうアプローチできるか
- ・ 教授的なやり方が一様に行われるようになってしまわないように、お茶大の知を生かせる機会となるとよい。世銀がやろうとしているのは貧困撲滅。その中で何ができるのか。
- ・ ニーズに応えるだけでなく、その先も示せるようなものを。

親の教育

- ・ インフォーマル・エデュケーションの部分。そこを逃げては本当の意味での貧困撲滅には進まない。
- ・ 親にやってもなかなかうまくいかないことも、子ども対子どもだと広がるという報告もある（ユニセフ）。